

<要支援者を含む地域の人々に対する働きかけ、地域の活動のあり方に関する意見>

～早期発見・予防の観点から～

- (自分から)助けを求めさえすれば9割は助けてくれるもの。(助ける側の体制だけでなく、むしろ)「助けられ上手教育」が必要。
- 知識の正しい周知が大切。介護者になった時に過剰反応しなくてよいように(事前の)認識を広げていくことが必要。
- 災害時支援にも防犯にもつながる日常の顔のみえる関係づくりが必要。
- 発見、相談、見守りなど地域が持つべき機能を情報の面から考え直すことが必要。
- 見守りというのをどうするのか。監視と見守りは紙一重。監視から見守りへ。
- 年をとると人間関係がしぼむ現実。それをみんなで支えることが必要。
- 福祉が高齢者中心で、子育て家庭や児童問題が抜けている。子どものときから地域全体が関わる必要がある。

【具体的事例】

- (社 協) ・ 小地域の見守り訪問やいきいきサロンでの顔みしり関係が日常の関係につながっている。
- (三鷹市) ・ 電球交換など隙間サービスを1時間100円で行う「ちょこっとサービス」。
・ 傾聴ボランティアなど「訪問させてもらう」取組。
- (すずの会) ・ 入所しても参加できるミニデイサービス。入所しても訪問し関係を切らない。ケアハウスへの「押しかけデイ」。地域の人ができる特養内の喫茶店。
・ 気になる人を一人以上入れるご近所サークル「ダイヤモンドクラブ」。
- (常盤平団地自治会)・安心登録カード、安否確認活動、緊急通報体制(孤独死110番)。